

## PRESS RELEASE



アサヒグループ大山崎山荘美術館

〒618-0071 京都府乙訓郡大山崎町銭原5-3 TEL 075-957-2364

The Circle of Mingei:  
A Chain of Relationships  
from Tamesaburo Yamamoto Collection

縁ぐるり

Ethel Mairet

Shoji Hamada

Kenkichi Tomimoto

Kanjiro Kawai

Keisuke Serizawa

2025  
4/19 土曜日  
-7/6 日曜日

※会期中、一部展示替あり

上から時計回りに：芹沢銈介《琉装の女》1940年代、富本憲吉《白磁染付轆轤ホップ文鉢》、河井寛次郎《スリップウェア繪文鉢》1931年、濱田庄司《白釉胴紐注瓶》1940年頃、エセル・メーレ《上蓋》1920年代 すべて部分、当館蔵

Asahi GROUP アサヒグループ大山崎山荘美術館

民藝

濱田庄司  
バーナード・リーチ  
富本憲吉  
芹沢銈介  
棟方志功  
河井寛次郎  
黒田辰秋  
青田五良  
エセル・メーレ

—山本爲三郎コレクションより

1920年代に思想家の柳宗悦(1889-1961)らを中心にはじまった民藝運動は、地域や国境、職業や世代を越えた人々の多様な繋がりを生みだしました。そのなかのひとり、朝日麦酒(現アサヒグループホールディングス)株式会社の初代社長をつとめた山本爲三郎(1893-1966)は、民藝運動を草創期から支えた人物として知られます。山本のもとに集まった品々は現在、山本爲三郎コレクションとして当館に所蔵され、「民藝」という言葉の誕生から100年を迎えた今なお、褪せることのない魅力を放っています。

本展は、この山本コレクションから9人の作家(濱田庄司、バーナード・リーチ、富本憲吉、芹沢銈介、棟方志功、河井寛次郎、黒田辰秋、青田五良、エセル・メーレ)に焦点を当てるものです。濱田とリーチ、リーチと富本、富本と芹沢、……メーレと濱田、という連続的なペアを作り、各々の作品とエピソードから、彼らの関係を一つの円環のように浮かび上がらせます。いわゆるグループ展とも2人展とも異なる試みが明らかにする、9人それぞれの関係性や意外な共通点、さらにはこの円環に派生する人々のつながりをご覧ください。

## 【本展に関するお問い合わせ先】

アサヒグループ大山崎山荘美術館 TEL 075-957-2364

FAX 075-957-3126

広報チーム(大西、飯田、池田、湯澤)

担当学芸員

なかい たまき かわい ゆうき  
中井 珠生、川井 遊木

## 【開催概要】

展覧会名 : つながる民藝 縁ぐるり —山本爲三郎コレクションより

会 期 : 2025年4月19日(土)–7月6日(日)

※会期中、一部展示替えあり

休 館 日 : 月曜日(ただし、5月5日は開館)

開館時間 : 10:00–17:00(最終入館 16:30)

会 場 : アサヒグループ大山崎山荘美術館

〒618-0071 京都府乙訓郡大山崎町銭原5-3

JR山崎駅、または阪急大山崎駅より徒歩約10分

TEL:075-957-3123(総合案内)

<https://www.asahigroup-oyamazaki.com>

主 催 : アサヒグループ大山崎山荘美術館

後 援 : 京都府、大山崎町、大山崎町教育委員会、京都新聞、読売新聞京都総局、朝日新聞京都総局、毎日新聞京都支局、産経新聞社京都総局、NHK京都放送局、エフエム京都

入 館 料 : 一般 1,100(1,000)円、高大生 500(400)円、中学生以下無料、障がい者手帳・ミライロIDをお持ちの方 300円 ※( )内 : 20名以上の団体

作品点数 : 約60点

展覧会URL : <https://www.asahigroup-oyamazaki.com/exhibition/mingei-gururi>



ポスタービジュアル

## 【出品作家紹介】

濱田庄司 (1894-1978)

神奈川県川崎市に生まれる。東京高等工業学校(現東京科学大学)窯業科を卒業後、1916年京都市立陶磁器試験場に入所。1920年、バーナード・リーチとイギリスに渡り、漁村セント・アイヴスに登り窯を築いて作陶する。1924年に帰国、柳宗悦、河井寛次郎らと民藝運動をはじめ。イギリス滞在中に訪れた小さな村ディッチリングで目にした、エセル・マーレら工芸家たちの暮らしに影響を受け、1931年栃木県芳賀郡益子町に窯を築き、生涯の作陶地とした。

バーナード・リーチ (1887-1979)

香港に生まれる。幼少期を日本やシンガポールなどで過ごし、ロンドンのスレード美術学校、ロンドン美術学校で絵画やエッチングを学ぶ。1909年来日し、柳宗悦をはじめとする白樺派と交流。楽焼に魅せられて、通訳の富本憲吉とともに六世尾形乾山に弟子入りし、陶芸の道に進む。1920年には濱田庄司を伴ってイギリスに帰国。1922年リーチ・ポタリーを設立。生涯に何度も来日して民藝同人との交流を続け、日本各地の窯で滞在制作も行った。

富本憲吉 (1886-1963)

奈良県生駒郡に生まれる。東京美術学校(現東京芸術大学)図案科を卒業後、イギリスに留学し、アーツ・アンド・クラフツ運動の思想や世界各地の工芸品について学ぶ。1910年に帰国し、バーナード・リーチとの交流をとおして陶芸の道を志す。民藝運動の最初期に関わるが、のちに離脱。「模様から模様を作らず」という独自の信念のもと、白磁、染付、色絵と独創的なデザインと造形を探求し、晩年は色絵に金銀彩を加えた華麗な作風を展開した。

芹沢銈介 (1895-1984)

静岡県静岡市に生まれる。東京高等工業学校(現東京科学大学)工業図案科を卒業。柳宗悦と知り合った翌年の1928年、初めて目にした紅型の風呂敷(うちくい)に魅了され、本格的に染色をはじめることを決意する。下絵を貼った和紙を彫って型紙を作る型絵染の技法を用いて、身の回りのあらゆるものから模様を感得し、表現した。1939年には沖縄を訪れ、現地で紅型の手法を学び、作風はよりいっそうおおらかで明るいものとなった。

棟方志功 (1903-1975)

青森県青森市に生まれる。はじめ鍛冶職の手伝いや青森地方裁判所の給仕をするも、雑誌『白樺』に掲載されたゴッホの《ひまわり》に感銘を受け、画家を志し1928年に上京。同年早くも帝展に入選するが、油彩画に限界を感じて版画に転向。1936年に柳宗悦、河井寛次郎、濱田庄司らの知遇を得て、仏教や古典文学などの知識を深めた。国際的な名声を得るなか、複製としての木版ではなく、板による表現として自ら名づけた「板画」を追究した。

## 【出品作家紹介】

河井寛次郎 (1890-1966)

島根県安来市に生まれる。東京高等工業学校(現東京科学大学)窯業科を卒業後、1914年京都市立陶磁器試験場に入所。1920年、京都市東山区五条坂の窯を購入し作陶。中国や朝鮮の古作にならった精妙な作品が人気を博していたが、柳宗悦や後輩の濱田庄司との交流をとおして、新たな方向性を見いだす。詩人や随筆家としての才能にも優れていた河井は、禪の造詣も深く、1カ月間自宅に滞在した棟方志功に禪の講義を行った。

黒田<sup>たつあき</sup>辰秋 (1904-1982)

京都府京都市に生まれる。漆塗りを営む家で、木工や漆工の技術を独学で身につけた。10代半ばにして伝統的な木漆工芸の分業制に疑問を抱き、素地から塗り、加飾までの一貫制作を決意。1924年の河井寛次郎の講演に感銘を受け、河井をとおして柳宗悦とも親交を結ぶ。1927年、柳が提案した上加茂民藝協団の設立に参画し、約2年半共同生活をしながら制作に打ち込む。協団の解散後も、乾漆や螺鈿の技術を駆使した幅広い作品を生み出した。

青田<sup>ごろう</sup>五良 (1898-1935)

兵庫県神戸市に生まれる。同志社大学を卒業後、同志社中学の教諭となる。在学中から京北地域の山間部で機織を学ぶ。河井寛次郎の作品に感銘を受け、自ら訪ねた河井をとおして柳宗悦を知り、長男・宗理の家庭教師を任される。衰退の一途であった日本の植物染料の技法を独自に研究。1927年、黒田辰秋らと上加茂民藝協団の設立に参画。協団の解散後、上加茂織工房を設立して『上加茂織之概念』を出版。結核のため1935年に早世。

エセル・マーレ (1872-1952)

イギリス南西部パーンスタプルに生まれる。パーンスタプル美術学校卒業。最初の夫の故郷スリランカ(当時のイギリス領セイロン)に滞在し、現地の刺繍などを調査・研究する。帰国後に染織工房を開設、1916年に技法書“Vegetable Dyes”(草木染)を出版。一貫制作によるシンプルな織りと多様な色彩の作品を生み出した。1921年、イギリス南部ディッチリングの工房を訪れた濱田庄司に「手織りの母」と称され、日本でも紹介された。

※文中の地名は全て現在の表記に統一しました

## 【展覧会関連イベント】

イベント名： 講演会「民藝をめぐる人々の縁について」

日 時： 5月17日(土) 13:30-15:00

講 師： 杉山<sup>たかし</sup>享司氏(日本民藝館常務理事〔元学芸部長〕)

会 場： 大山崎ふるさとセンター

京都府乙訓郡大山崎町字大山崎小字竜光3

※阪急大山崎駅から徒歩1分、JR山崎駅から徒歩3分

※美術館が会場ではありません

内 容： 民藝運動の本拠地として柳宗悦らが設立した、日本民藝館の常務理事を務める杉山氏をお迎えし、民藝をめぐる多様な人々のつながりについてお話しいただきます。

定 員： 50名(要事前申込、先着順)

参 加 費： 無料

申 込： 展覧会ウェブページの申込フォームよりお申し込みください。

◎申込フォーム：<https://form.run/@asahibeer-mingeilecture>

申込期間：5月10日(土)まで

※電話・メールによる受付はいたしません

※定員に達し次第、当館ウェブサイトでお知らせいたします



イベント名： ギャラリートーク ※事前申込不要

日 時： 6月21日(土)、28日(土) 各日11:00-11:30/14:00-14:30

会 場： 当館展示室

内 容： 学芸員が本展覧会の見どころを解説いたします。

参 加 費： 無料(入館料別)

## 【会期中のイベント】

開館前の静かな大山崎山荘(美術館本館、登録有形文化財)を解説付きでじっくりとご堪能いただける2つのツアーを開催します。

イベント名： 大山崎山荘ツアー① 意匠と風景をたのしむ(館内一部の写真撮影可)

日 時： 5月27日(火) 9:00-10:30

内 容： 築100年を超える大山崎山荘を解説付きでご案内します。ツアー内では通常撮影不可の館内を特別にお撮りいただくこともできます。

朝の光が降り注ぐ大山崎山荘の美しい意匠と風景をご堪能ください。

定 員： 12名(要事前申込、抽選)

参加費： 無料(入館料別)

対象年齢： 中学生以上

申 込： 申込フォームよりお申し込みください。

◎申込フォーム：<https://form.run/@oyamazaki-phototours>

申込期間：4月22日(火)まで

※電話・メールによる受付はいたしません

※申込期間終了後、当選者のみへメールでご連絡いたします



イベント名： 大山崎山荘ツアー② 山荘を感覚でたのしむ

日 時： 6月11日(水) 8:45-10:00

内 容： 築100年を超える大山崎山荘をご案内します。最寄り駅から美術館の本館入口までバスで移動した後、ガイドの解説とあわせて、体の感覚を使ってゆっくりと建物を鑑賞します。開館前の山荘内にひろがる音や光・質感など、視覚だけではない特別な鑑賞をおたのしみください。

定 員： 12名(要事前申込、抽選)

参加費： 無料(入館料別)

対象年齢： 中学生以上

申 込： 申込フォームよりお申し込みください。

◎申込フォーム：<https://form.run/@asahibeer-kankakutour>

申込期間：5月7日(水)まで

※電話・メールによる受付はいたしません

※申込期間終了後、当選者のみへメールでご連絡いたします



## 【カフェ企画】

内 容 : ぐるりとつながる縁<sup>えん</sup>の輪をイメージして、2種の丸いスイーツを作りました。バター香る濃厚なフィナンシェ生地をベースに、中央にはバタークリームとガナッシュを2層に重ね、満足感のある一品に仕上げています。甘みとほのかな苦みのバランスが絶妙な、本展会期中限定の特製オリジナルスイーツです。

会 場 : 当館喫茶室

協 力 : リーガロイヤルホテル京都

### 抹茶ノ輪

京都・和束町<sup>わづか</sup>産の宇治抹茶をふんだんに使用した生地に、香り高い抹茶バタークリームとホワイトチョコガナッシュを合わせました。クリームとガナッシュの間にしのばせたレモンジャムと、トップの黒豆がアクセントになっています。



### ショコラノ輪

ココアを練りこんで焼きあげた生地<sup>こ</sup>に、コーヒーバタークリームとビターチョコガナッシュを合わせました。クリームとガナッシュの間には、ローストしたクルミを贅沢に丸ごと挟んでいます。トップにレモンピールとピスタチオを添えて。



※料金等詳細は後日公開予定です。ウェブサイトでご確認ください

<https://www.asahigroup-oyamazaki.com/guide/rest/>

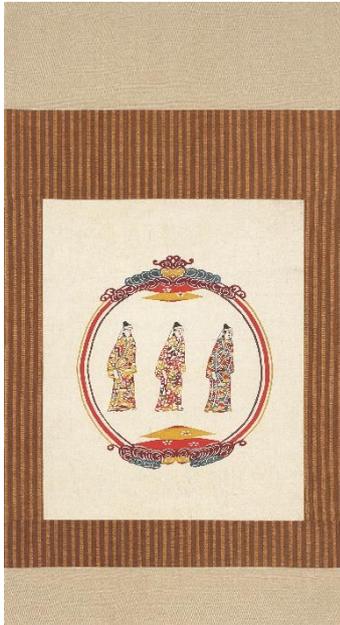
※喫茶室の利用には美術館入館料が必要です

## 【広報画像について】

本展の広報画像全5点は、[展覧会ウェブページ](https://www.asahigroup-oyamazaki.com/exhibition/mingei-gururi)でもご紹介していますので、ご確認ください。

<https://www.asahigroup-oyamazaki.com/exhibition/mingei-gururi>

①



芹沢銈介《琉装の女》  
1940年代 当館蔵

②



富本憲吉《白磁染付蠟抜ホップ文鉢》  
当館蔵

③



河井寛次郎  
《スリップウェア線文鉢》  
1931年 当館蔵

④



濱田庄司《白釉胴紐注瓶》  
1960年頃 当館蔵

⑤



エセル・マーレ《上着》  
1920年代 当館蔵

## 【広報画像使用・取材申請について】

当企画展の画像使用や取材の申請は、当館ウェブサイト「プレスリリース」内の  
広報画像・取材申請フォームからお願いいたします。追って広報担当よりご連絡いたします。  
広報画像・取材申請フォーム：<https://form.run/@asahibeer-gururipress>



※今後プレスリリースは、メールでのご案内に切り替えさせていただきます。

ご希望の方は下記のフォームより、メール配信のご登録をお願いいたします。

プレスリリース メール配信登録：<https://form.run/@oyamazaki-pressrelease>

